

## &lt; 数学 &gt;

時間 50 分 満点 100 点

【注意】 答えに根号が含まれるときは、根号を付けたまま、分母に根号を含まない形で表しなさい。また、根号の中を最も小さい自然数に直しなさい。

1

次の各問に答えよ。

〔問 1〕  $\frac{1}{\sqrt{3}}\left(2 - \frac{5}{\sqrt{3}}\right) - \frac{(\sqrt{3}-2)^2}{3}$  を計算せよ。

〔問 2〕 連立方程式 
$$\begin{cases} \frac{4x+y-5}{2} = x+0.25y-2 \\ 4x+3y=-6 \end{cases}$$
 を解け。

〔問 3〕 右の図のように、3つの袋A, B, Cがあり、袋Aの中には1, 2, 3の数字が1つずつ書かれた3個の玉が、袋Bの中には1, 2, 3, 4の数字が1つずつ書かれた4個の玉が、袋Cの中には1, 2, 3, 4, 5の数字が1つずつ書かれた5個の玉が入っている。



3つの袋A, B, Cから同時に玉をそれぞれ1つずつ取り出す。

このとき、取り出した3つの玉に書かれた数の和が7になる確率を求めよ。

ただし、3つの袋それぞれにおいて、どの玉が取り出されることも同様に確からしいものとする。

〔問 4〕 右の図1に示した立体ABCDは、1辺の長さが6cmの正四面体である。

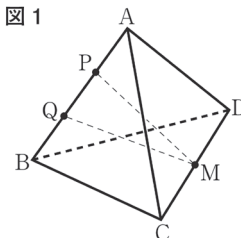
辺AB上にある点をP, Q, 辺CD上にある点をMとする。

点Pと点M, 点Qと点Mをそれぞれ結ぶ。

AP=2cm, BQ=2cm, CM=3cmとすると、

次の(1), (2)に答えよ。

図 1



(1) 次ページの図2は図1において、平面ABM上にある辺ABおよび点P, 点Qを表している。

解答欄に示した図をもとにして、図1の平面ABM上にある△PQMを定規とコンパスを用いて作図せよ。

## &lt;英語&gt;

時間 50 分 満点 100 点

※リスニングテストの音声は弊社 HP にアクセスの上、  
音声データをダウンロードしてご利用ください。

1

リスニングテスト(放送による指示に従って答えなさい。)

〔問題A〕 次のア～エの中から適するものをそれぞれ一つずつ選びなさい。

&lt;対話文1&gt;

- ア Tomorrow.
- イ Next Monday.
- ウ Next Saturday.
- エ Next Sunday.

&lt;対話文2&gt;

- ア To call Ken later.
- イ To leave a message.
- ウ To do Bob's homework.
- エ To bring his math notebook.

&lt;対話文3&gt;

- ア Because David learned about *ukiyo*e pictures in an art class last weekend.
- イ Because David said some museums in his country had *ukiyo*e.
- ウ Because David didn't see *ukiyo*e in his country.
- エ Because David went to the city art museum in Japan last weekend.

〔問題B〕&lt;Question1&gt;では、下のア～エの中から適するものを一つ選びなさい。

&lt; Question2 &gt;では、質問に対する答えを英語で書きなさい。

&lt;Question1&gt;

- ア In the gym.
- イ In the library.
- ウ In the lunch room.
- エ In front of their school.

&lt;Question2&gt; (15秒程度、答えを書く時間があります。)

However, one day, we made a serious \*mistake at a very important party. Actually, it was not my mistake, but one of my \*coworkers said to the chef that it was, and the chef believed that. I was very shocked. I decided to leave the hotel restaurant, and started to work at a small restaurant. I tried hard to cook meals as well as I did at the famous hotel restaurant, but it was difficult because we could not pay much money for better food. My coworkers were all nice, but they were not very skillful and looked \*lazy. I tried to teach them how to cook well and how to work efficiently, but they did not listen to me. I was at a loss. I often said to my wife, Fumi, "If they follow my advice, our restaurant will soon become very popular. <sup>(4)</sup>I don't understand why they don't listen to me."

One Sunday, I went shopping with Fumi and went into a restaurant for lunch. A staff member brought a \*hamburg steak to the man sitting next to us. It was only with carrots, with nothing else. I said quietly to Fumi, "It looks like one for a child, not for an adult. They should do their best to make a more delicious hamburg steak and dish it up in a more sophisticated way." However, the man looked very happy to see the plate. He started to eat it, and suddenly said, "This is it!" I was surprised, and asked him, "What's so special about it?" He said, "It may not look so special to you, but it is to me. I came here with my parents forty years ago for my tenth birthday, and I loved their hamburg steak. Today I told about that to a staff member. Guess what happened. This is dished up in \*exactly the same way, and tastes exactly the same! I hear they usually make it in a more sophisticated way, but <sup>(5)</sup>this is exactly the one I want today." I looked around. It was an old but well cleaned restaurant. All the customers looked happy with their meals. There were only three staff members, but all of them were working efficiently. Everybody was smiling. I \*regretted my words to Fumi.

After lunch, I had a chance to talk with the chef. He said, "<sup>(6)</sup>One man's treasure may be another man's waste. We just always think about other people's feelings." His words reminded me of my school days and my stay in France. At that time I had a great time talking with various people and learning various values. However, after I began working, I started pushing my opinion on people around me. Now I know I could not work well with my coworkers at both restaurants because of this reason.

The next morning, I talked with the other staff members about my plans for a better restaurant, and asked them to tell me theirs. <sup>(7)</sup>I 【① had ② almost ③ to find ④ was surprised ⑤ their own plans ⑥ them ⑦ all of ⑧ that】. They just had ideas that were different from mine. I believed that they were lazy, but I was wrong. They just did not have enough skills to realize those ideas. From that day, we have a meeting twice a week to \*exchange our opinions. I also began to watch and listen to my coworkers and customers to guess what they want. Now more people smile at me, and I have a busier but happier life. Someday I want to have my own restaurant that is full of smiles.

者暮らしを手伝わせているんですよ、まあ、わたしなどはそんなところですよ、隠者のまねごとですな。

そう読めば、結びもまた、自然な感慨として受け取れる。病気がちのこの身、薬があればそれでけっこう、ほかに何かを求めようとて、そりゃ無理だとわかってますよ。

人によつては、ほんとうの自足とはそういうものではないと言いかもしれない。すべてに不満はなく、まるで悟りを開いたかのように、何があつても心を波立たせない精神こそが自足だと。しかし<sup>(2)</sup>草堂の杜甫の自足は、そうではないところに意味があるし、そうではないからこそ、人々に読みつがれている。もとより安閑ではないが、諦念とも少し違う。むしろモザイクのように、小さな感情のかけらがあちこちに埋めこまれているような、そんな感覚に誘われる。

杜甫が草堂で暮らしていた時期は、意外に短い。永泰元年（七六五）には、<sup>\*</sup>岷江を船で下り、<sup>\*</sup>梓州へ一年ほど避難している。あれこれ足し算すれば、杜甫が落ち着いて草堂で暮らしたのは三年半といったところだろうか。そこで書かれ、今にのこされた詩は二百首あまり。その多寡よりも、草堂にモザイクを埋めていくような詩のありかたが、そのすみかを詩によって縁どうろとした杜甫の意思を感じさせる。

草堂の杜甫の詩は自然描写においてすぐれる、もしくは画期をなすと説明されることが多い。たしかに、ここで取り上げた数首からだけでも、類型的な表象を脱した観察眼のする

どさとあたたかさは感得される。しかしそれもまた、草堂をめぐる空間であればこそ、仔細に描かれ、そこにそうあるものとして置かれる。そこにそうあるものであることを示すためには、そのありかたを微細に描写するのがもつとも適切であり、そしてそれを善くする条件を杜甫はそなえていた。杜甫の才能というだけではない。

<sup>(3)</sup> たんなる安逸の空間では、おそらくこうした描写は生まれなかった。

その意味では、妻も子も、そして杜甫自身も、そこにそうあるものとして区別はない。

<sup>(4)</sup>  
 南京久客耕南畝 北望傷神坐北窓  
 昼引老妻乘小艇 晴看稚子浴清江  
 俱飛蛺蝶元相逐 並蒂芙蓉本自双  
 茗飲蔗漿漿所有 瓷甕無謝玉為缸

南京の久客南畝を耕し、北望して神を傷め北窓に坐す。昼は老妻を引いて小艇に乗り、晴れには稚子の清江に浴するを見る。俱に飛ぶ蛺蝶は元と相い逐い、蒂を並ぶ芙蓉は本と自ら双ぶ。茗飲蔗漿漿有る所を携えれば、瓷甕は玉を缸と為すに謝する無し。

「進艇（艇を進む）。上元二年（七六一）の作、季節は夏。南京は、成都のこと。北望は、はるかかなたの中原を望んで。南畝と北窓は、農地と書齋の対比にもなっており、た

暁に紅の湿れる処を看れば、花は錦官城に重からん。

ここには、生産物としての錦というよりも、街全体が錦であるかのようなイメージがある。雨に濡れた春の花によつて綾なされた街。水で洗われた錦さながらの美しさをうたう。

となると、<sup>(1)</sup>浣花の語も、そうした成都のイメージと結びついて選ばれたものかもしれない。草堂がかまえられたのは錦江の上流、かつての錦官城から少しさかのぼったところである。濯錦（錦を濯ぐ）の縁語として浣花（花を浣う）はつりあう。もちろん、杜甫がこの地に住む以前から、浣花溪の称があつた可能性を否定できるものではないが、少なくとも詩にそれを登場させたのは、杜甫が最初である。

草堂をめぐる杜甫の詩には、「浣花村」「浣花橋」「浣花竹」などの語も見える。杜甫は自分の住もうとする土地を浣花と呼びなすことで、成都という街のかたわらに安逸の世界を作ろうとしたのだろう。

草堂での杜甫は、のびやかな時間を家族と過ごし、それを詩に描く。

清江一曲抱村流 長夏江村事幽  
自去自来梁上燕 相親相近水中鷗  
老妻画紙為棋局 稚子敲針作釣鉤  
多病所須唯藥物 微軀此外更何求

清江一曲村を抱いて流れ、長夏江村事幽かなり。自ら去り自ら来る梁上の燕、相い親しみ相い近づく水中の鷗。老妻は紙に画いて棋局を為り、稚子は針を敲いて釣鉤を作る。多病須つ所は唯だ藥物、微軀此の外に更に何をか求めん。

「江村」。上元元年（七六〇）、草堂を建てた年の夏の作。

川はぐるりと村をめぐる流れ。夏の長い日の静かな村。杜甫が草堂のある場所を気に入っていたのは、まるで堀がめぐるように、川が村を囲んで流れていたこともあつたのではと想像する。翌年に書かれた七言律詩「客至（客至る）」は「舍南舍北皆春水」と始められ、草堂の地はたしかに川の湾曲部の内側にあつた。外界とはつながりつつも、そこは一つの独立した空間であり、草堂だけではなく村全体が、隠棲の場だったのである。

そうした空間で、いま目の前にあるのは、巢との往復に忙しい燕、川で群れながら泳いでいる鷗。小さな集団の平和な営み。

草堂の内へと目をやれば、妻は紙に線を引いて碁盤を作り、子どもは針をたたいて釣りばりを作る。暮も釣りも隠者らしい営みではあるが、その道具を作る手伝いを家族がしているという描写は、杜甫ならではのものだ。たぶんそれはリアリズムとかそういうことではない。日常生活の活写などでもない。むしろ、戯画的なおもむきがここには感じられ、七言のリズムもそれを助けている。妻や子にありあわせの材料で隠

が主体でも命令の形式をとることを、特に強調する意図。  
イ 類似の例を挙げて、法律の条文では、命令の主体が表現されないことを、より明確にする意図。

ウ 同様の例を挙げて、法律の背後に存在する立法の主体は、自己の存在を隠蔽することを、暗示する意図。

エ 性質の違う例を挙げて、近代的な法律でも、神と同等の権威性が必要なことを、示唆する意図。

〔問6〕 この文章の構成、内容の説明として適切なものはどれとどれか。正しい組み合わせを、後のア～オの選択肢から一つ選べ。

a 一般になじみの薄い法律論を展開しながらも、著名なことわざ等を引用して親しみやすく説明をしている。

b 法律の条文を対象としながら、分析の過程では他の分野の文体との共通点も視野に入れている。

c 日本と欧米それぞれの文化的背景を念頭に置いて、法律に表れた文体の相違を指摘している。

d 最近の法律の条文を例にし、標準的な文体と時代に合わせて変化する文体とを論じている。

e 全体を起承転結の流れで構成し、一貫した観点で法律の文体を分析している。

f 法律の条文を大きく二つの異なる視点から分析し、文体の特徴について考察している。

ア aとf    イ bとe    ウ cとd

## 5

エ aとe    オ bとf

〔問7〕 この文章で指摘されている法律の文章の特徴を一点挙げ、そうした特徴を踏まえて、法律の文章についてどう思うか、あなたの考えを二〇〇字以内で書け。なお、書き出しや改行の際の空欄や、や。や。や「などもそれぞれ字数に数えよ。

次の文章を読んで、あとの各問に答えよ。＊印の付いている言葉には、本文のあとに〔注〕がある。

今日では、浣花溪＊かんかけいは広く知られた川の名で、杜甫＊とほがここに建てた草堂もしばしば浣花草堂と称されるのだけれども、じつはその地名を杜甫以前の文献に見いだすことは難しい。浣花は川の名であるというよりは、その形容ということになる。  
成都＊せいとを流れる川を錦江＊きんじやうと称するのは、そこで錦＊にしきを洗うからだ。

役所としての錦官は唐代にはすでになかったが、錦が蜀＊しやうの名産であることにはかわりはなく、錦官城あるいは錦城は成都の異名ともなった。

杜甫の五言律詩「春夜喜雨（春夜雨を喜ぶ）」は、錦官城の名で結ばれる。

曉看紅濕処    花重錦官城